

平成 14 年 10 月 19 日

印刷残紙を有効活用

「リサイクルノート」海外寄贈 10 周年

本日 19 日、区立文成小学校体育館（西島 興蔵校長 池袋本町 4-36）で、区内印刷業関係団体と区が協力して作成したリサイクルノート 37,400 冊の贈呈式が行なわれた。主催：東京都印刷工業組合豊島支部、豊島区印刷関連産業団体協議会。後援：豊島区、豊島区教育委員会

豊島区は、東京都印刷工業組合豊島支部並びに豊島区印刷関連産業団体協議会の 2 団体と連携し、印刷過程で発生する残紙（余った紙）の有効活用を図るため、平成 5 年からこの残紙を原料にリサイクルノートを作成、財団法人ジョイセフを通じてアジア・アフリカ・中南米などの開発途上国に寄贈してきた。今年はこの事業 10 周年、さらに区制施行 70 周年の節目にあたることから、これを記念して区内小学校児童にもノートを寄贈、加えて東京都印刷工業組合豊島支部が印刷製本した話題の絵本「葉っぱのフレディ」を各小学校等に寄贈することとなった。

印刷業は区の地場産業で、区内には 180 社以上の印刷会社があり、区内製造業事業所の中で最も多い。こうした印刷会社では、印刷過程で発生する大量の残紙を専門処理業者に引き取ってもらうなどしてきたが、より有効な活用法を模索していた。一方、紙が貴重品である開発途上国にあっては、小中学校で子どもたちが使うノートから診療所のカルテまで絶対的に不足している状況があった。そこで、資源有効活用と同時に国際協力にも役立てようと、印刷業者の要請を受け事業を開始、これまでもすでに 96 カ国に 30 万冊以上のノートが贈られ、子どもたちの勉強や保健婦・助産婦の活動記録用紙などに役立っている。

リサイクルノートは A4 判で 64 ページ。豊島区印刷関連産業団体協議会会員の印刷所にストックされた残紙を用い、区が印刷・製本費用の一部を負担し、指定の印刷所で 37,400 冊が作成された。このうち、35,000 冊がジョイセフを通じ海外に寄贈され、残り 2,400 冊が区立全小学校の 1, 2 年生児童に配られる。また区制施行 70 周年の記念として絵本「葉っぱのフレディ」100 冊とクリアファイル 1,000 冊が各小学校・児童館・図書館に寄贈されることとなった。

本日午前 10 時 45 分から行なわれた贈呈式では、豊島区印刷関連産業団体協議会の藤井壽会長から二ノ宮富枝・豊島区教育委員会教育長へ絵本とクリアファイルが、また同会長から高野之夫豊島区長へ贈られたリサイクルノートが、西島興蔵文成小学校長並びに財団法人ジョイセフ近康男事務局長にそれぞれ引き渡された。

近事務局長は「文字を読める人が 20%にも満たない国々では、地面に枯れ枝で字を書いて学んだりしています。そうした国の子どもたちは、この 1 冊のノートを手にしてとても大きな意欲をかき立てられ、また子どもたちに刺激されて、親達も文字の勉強を始めているとのこと」と寄贈した国々からの報告を伝え、こうした活動が 10 年も続けられ、地道な国際協力が大きな成果をもたらしていると感謝の言葉を述べた。

また、贈呈式の後には、区立上池袋図書館職員による「葉っぱのフレディ」の朗読、ジャズグループによる演奏が行なわれ、小学生を含む参加者たちは楽しいひと時を過ごした。

詳細：リサイクル推進課